

# ベルリン・コンツェルトハウス管弦楽団 日本公演

2023年5月9日 - 5月14日

## 目次

ベルリン・コンツェルトハウス管弦楽団 日本公演

## プログラム

ベルリン・コンツェルトハウス管弦楽団

常任指揮者 クリストフ・エッシャンバッハ

ベルリン・コンツェルトハウス管弦楽団と

クリストフ・エッシャンバッハの CD

ベルリン・コンツェルトハウス

五嶋みどり プロフィール

佐藤晴真 プロフィール

## 広報連絡先

ベルリン・コンツェルトハウス

所在地 10117 ベルリン市ジャンダルメンマルクト

ウェブサイト [www.konzerthaus.de](http://www.konzerthaus.de)

広報・報道関係責任者

ルディ・シュミット

電話番号 0049 - 3020 - 309 - 2118

携帯電話 0049 - 162 - 3352 - 683

Email [r.schmid@konzerthaus.de](mailto:r.schmid@konzerthaus.de)  
[presse@konzerthaus.de](mailto:presse@konzerthaus.de)

# ベルリン・コンツェルトハウス管弦楽団 日本公演

ベルリンの歴史あるジャンダルメンマルクト広場を本拠地とするベルリン・コンツェルトハウス管弦楽団が、首席指揮者クリストフ・エッシェンバッハの指揮のもと来日し、5月9日から14日にかけて東京、横浜、福岡、名古屋の日本の主要なコンサートホールで公演を行います。

クリストフ・エッシェンバッハのベルリン・コンツェルトハウス管弦楽団首席指揮者として最後の海外公演となる今回の日本公演のプログラムにはブラームスの交響曲全曲が組み込まれており、このブラームスの交響曲全集は2021年にリリースされたCDにも録音されています。シューマンのヴァイオリン協奏曲ではエッシェンバッハと昔から音楽的に交流の深い世界的に有名なヴァイオリニスト五嶋みどりとの協演が実現し、ドヴォルザークのチェロ協奏曲には2019年ミュンヘン国際コンクールの優勝者である若手チェリスト佐藤晴真が抜擢されました。

ベルリン・コンツェルトハウス管弦楽団の本拠地である、ベルリンのジャンダルメンマルクト広場に立つベルリン・コンツェルトハウスはウェーバーの歌劇『魔弾の射手』が1821年に初演された場所であり、今回の日本公演ではほぼすべての公演が『魔弾の射手』の序曲で始まるプログラムになっています。

## クリストフ・エッシェンバッハより日本の皆様へ向けたメッセージ

「オーケストラと来日公演できるということは毎回特別で、大変喜ばしいことです。クラシック音楽への関心が高い日本のコンサートホールはいつもすべて満員で、大勢の方がコンサート後に長い列を作ってレコードにサインを求めたり、感謝の気持ちを伝えたりしてくださいます。内面に根付く精神性がなければ音楽への本当の理解は得られませんが、日本のクラシックファンの皆さんには音楽への深い理解をお持ちです。私は1969年に初めてピアニストとして日本を訪れた時すぐに日本が好きになりました。それ以来日本文化は私にとってずっと身近な存在です。」

# プログラム

5/9(火)19:00 開演 東京オペラシティ コンサートホール

ベルリン・コンツェルトハウス管弦楽団

クリストフ・エッシェンバッハ（指揮）

佐藤晴真（チェロ）

ウェーバー：歌劇『魔弾の射手』序曲

ドヴォルザーク：チェロ協奏曲 口短調 Op.104

ブラームス：交響曲第2番 ニ長調 Op.73



©Marco Borggreve

5/10(水)19:00 開演 横浜みなとみらいホール

ベルリン・コンツェルトハウス管弦楽団

クリストフ・エッシェンバッハ（指揮）

ブラームス：交響曲第3番 ヘ長調 Op. 90

ブラームス：交響曲第1番 ハ短調 Op. 68

5/11(木)19:00 開演 サントリーホール

ベルリン・コンツェルトハウス管弦楽団  
クリストフ・エッシェンバッハ（指揮）  
五嶋みどり（ヴァイオリン）  
ウェーバー：歌劇『魔弾の射手』序曲  
シューマン：ヴァイオリン協奏曲 ニ短調  
ブラームス：交響曲第4番 ホ短調 Op. 98

5/13(土)17:00 開演 アクロス福岡シンフォニーホール

ベルリン・コンツェルトハウス管弦楽団  
クリストフ・エッシェンバッハ（指揮）  
五嶋みどり（ヴァイオリン）  
ウェーバー：歌劇『魔弾の射手』序曲  
シューマン：ヴァイオリン協奏曲 ニ短調  
ブラームス：交響曲 第1番 ハ短調 Op.68

5/14(日)15:00 開演 愛知県芸術劇場 コンサートホール

ベルリン・コンツェルトハウス管弦楽団  
クリストフ・エッシェンバッハ（指揮）  
五嶋みどり（ヴァイオリン）  
ウェーバー：歌劇『魔弾の射手』序曲  
シューマン：ヴァイオリン協奏曲 ニ短調  
ブラームス：交響曲 第4番 ホ短調 Op.98

## ベルリン・コンツェルトハウス管弦楽団

ベルリン・コンツェルトハウス管弦楽団の首席指揮者には 2019-20 年のシーズンからクリストフ・エッセンバッハが就任、前任者のイヴァン・フィッシャーは名誉指揮者として、2017 年からはユライ・ヴァルチュハが第一客演指揮者として定期的に同管弦楽団に大きな影響を与えており、次期首席指揮者には 2023-24 年のシーズンからヨアナ・マルヴィッツの就任が決定しています。

ベルリン・コンツェルトハウス管弦楽団は 1952 年にベルリン交響楽団（Berliner Sinfonie-Orchester）という名称で創立され、1960 年から 1977 年にかけて首席指揮者クルト・サンデルリングの指揮のもとオーケストラとしての個性を確立し国際的な称賛を得ました。1984 年に本拠地のベルリン市ジャンダルメンマルクト広場にコンツェルトハウス（旧シャウシュピールハウス）が再建されて以来コンサートを繰り返し開いていた同楽団は 10 年後公式にコンツェルトハウス付きのオーケストラとなり、2006 年にベルリン・コンツェルトハウス管弦楽団と名称を変更し、1 年に 100 以上のコンサートを行うほか、ドイツ国内外で公演し音楽祭に出演しています。2010 年には才能ある若手の育成のためクルト・サンデルリング・アカデミーが設立され、後進の指導にも力を入れています。

ベルリン・コンツェルトハウス管弦楽団のメンバーは、普段のオーケストラ演奏のほか、客席の中で演奏をするコンサート「ミッテンドリン」の開催や、数々の賞を受賞した動画「# klangberlins」で映像クリップにそれぞれの楽器で音付けを担当したり、インターネット・プラットフォーム「twitch」でのライブ動画配信に出演するなど、芸術性の高い音楽を観客のみなさんにより身近に感じてもらえるよう様々な機会で演奏しています。またオーケストラとしての様々な社会教育的活動を通じてベルリン市とも強い絆で結ばれています。

# ベルリン・コンツェルトハウス

「音楽は人を動かし、人をつなぐ」

これがベルリン・コンツェルトハウスの信念であり、幅広い層の観客にクラシック音楽を知ってもらう機会を提供し、長く熱烈なファンとしてコンサートに訪れてもらうことがコンサートホールとしての使命だと考えています。

そのためベルリン・コンツェルトハウスではベルリン・コンツェルトハウス管弦楽団の高度な芸術性と音楽を届ける壮大なシンフォニーコンサートのほか、様々な新しいかたちでのコンサートを開催しています。その一環である、歴史に残る偉大な音楽家に捧げるオマージュ・コンサートシリーズや新しい試みで様々な客層の心をつかむよう努め、他のジャンルの芸術家やアンサンブルとの交流も大切にし、表現活動の場を提供しています。

また今後デジタル配信で実現する文化提供のあり方にも並々ならぬ可能性を見出しており、ここ数年でこれまでのコンサートの開催に加えてイマージョン、インタラクション、参加の要素を可能にするデジタル配信サービスを充実させ、コンサートの前に鑑賞準備をしたり、コンサート後に余韻に浸ったり、使いやすくかつ対話を可能にするようなコンテンツも構築しています。

# 首席指揮者

## クリストフ・エッセンバッハ

1940 年にブレスラウ（現ポーランド・ヴロツワフ）に生まれ、当初は世界的なピアニストとして名声を馳せたのちの 1972 年に指揮者に転身、ウィーン・フィル、ロンドン・フィル、シカゴ交響楽団、ボストン交響楽団、ゲヴァントハウス管弦楽団、パリ管弦楽団など一流のオーケストラでタクトを振る。またロイヤル・オペラ・ハウス、バイロイト音楽祭、メトロポリタン・オペラ、オペラ・バステイユ等主要なオペラハウスも指揮し、ザルツブルク音楽祭、シュレスヴィヒ＝ホルシュタイン音楽祭では芸術監督をつとめた。エッセンバッハの多彩で新しい試みにも意欲的な姿勢は指揮者としてだけでなく後進の指導にあたる教育者としても国際的な評価をもたらし、芸術家同士の交流も盛んに行われている。

これまでチューリヒ・トーンハレ管弦楽団音楽監督、ヒューストン交響楽団首席指揮者、ハンブルク北ドイツ放送交響楽団首席指揮者、パリ管弦楽団首席指揮者、フィラデルフィア管弦楽団音楽監督、ワシントン・ナショナル交響楽団音楽監督を歴任。2019-20 年シーズンからベルリン・コンツェルトハウス管弦楽団の首席指揮者に就任。

エッセンバッハとの最後のシーズンとなる 2022-23 年のプログラムには別れのテーマの伏線が隠されており、2022 年 8 月 26、27 日のシーズン・オープニングコンサートでグスタフ・マーラーの交響曲第 5 番とリヒャルト・シュトラウスの『4 つの最後の歌』ガルネ・フレミングのソプラノで演奏され、2023 年 6 月にはシューベルトの『未完成交響曲』とモーツアルトのレクイエムが上演予定である。

これまでの数多くのレコーディングの功績を称えてフランスのレジオン・ドヌール勲章シュヴァリエ、国家功労勲章、芸術文化勲章コマンドゥール、ドイツの国家功労勲章、レナード・バーンスタイン賞、エルнст・フォン・ジーメンス賞等を受賞。

# ベルリン・コンツェルトハウス管弦楽団とクリストフ・エッセンバッハの CD

ベルリン・コンツェルトハウス管弦楽団と首席指揮者エッセンバッハは 2021 年に Brahms 交響曲全集をレベル「ベルリン・クラシックス」から発売。Brahms の交響曲 4 曲は今回の来日公演でも演奏されます。

この CD はベルリン・コンツェルトハウスのオンラインショップ (<https://www.konzerthaus.de/de/shop-cd-und-dvd>) でお求めいただけます。

さらに後期ロマン派の作曲家 Franz Schreker の作品を集めたアルバム【はるかなる響き (Der ferne Klang)】もソプラノのチェン・ライスとバリトンのマティアス・ゲルネの独唱、ベルリン・コンツェルトハウス管弦楽団とエッセンバッハの指揮で録音されました。

(<https://www.deutschegrammophon.com/de/katalog/produkte/der-ferne-klang-orchestral-works-songs-by-franz-schreker-eschenbach-12903>)

## 五嶋みどり プロフィール

1971 年大阪生まれ。幼少期から母である五嶋節にヴァイオリンの手ほどきを受け、11 歳で指揮者ズービン・メータに招待されニューヨーク・フィルのジルベスター・コンサートに出演。デビュー40 周年を迎える今年はピアニストのジャン=イヴ・ティボーデとのベートーヴェンのヴァイオリンソナタ全集のレコーディングのほか、カーネギーホール、ワシントン D.C.、サンフランシスコ、ドレスデン、ボン、ルートヴィヒスブルクでのヴァイオリン・ソロリサイタルが予定されている。

また五嶋みどりの活躍はステージ上にとどまらず、非営利団体「みどり教育財団（Midori & Friends）」、認定 NPO 法人「ミュージック・シェアリング」等非営利団体を複数設立。芸術家としてのみならずこのような社会貢献が高い評価を得て国連平和大使に任命され、数々の賞を受賞。

現在、米国フィラデルフィアのカーティス音楽院にてドロシー・リチャード・スター・リング・シアとして教鞭を執るほか、ジョンズ・ホプキンズ大学ピーボディ音楽院の「著名なヴィジティング・アーティスト（„Distinguished Visiting Artist“）」としても後進の指導にあたる。使用楽器は 1734 年製グアルネリ・デル・ジェス「エクス・フェーベルマン」、愛用している弓はドミニク・ペカット、フランソワ・ペカット、ポール・シーフリード。

## 佐藤晴真 プロフィール

1998 年愛知県生まれ。2019 年に第 68 回ミュンヘン国際音楽コンクールチェロ部門において優勝し一躍国際的に注目を集め。第 83 回日本音楽コンクールチェロ部門第 1 位、ベルリンで開催される第 13 回ドメニコ・ガブリエリ・チェロコンクール第 1 位、ルトスワフスキ国際チェロコンクール第 1 位。

ソリストとして国内外の一流オーケストラと共に演するほか、リサイタル、室内楽においてヨーロッパ各地と日本のコンサートホールで好評を博している。

2020 年に名門ドイツ・グラモフォンから発売された「The Senses～ブラームス作品集～」で CD デビューをはたし、今年 4 月には 3 枚目の CD がリリースされた。

現在、ベルリン芸術大学にて J=P.マインツ教授に師事している。